深　谷　の　植　物

林　　幸　子

深谷の自然は美しく、植物も一年を通じて実に豊富で、注意すべき珍品がいくつかあります。福井の市街地から自転車で出かけるのにも、ころあいの距離のこの谷のよさは、3月から初夏にかけてです。

浅雪がある頃にまちきれずに谷へ入っていくと雪のとけたすぐあとから、キクザキイチゲが谷川べりに、日のさす斜面にタチスボスミレ、オオタケツボスミレ、ツボスミレ、ショウジョウバカマが、ひかげの斜面には、オオレン、エンレイソウ、コチャルメルソウ、スミレサイシン、フキノトウなど春の早い草が花をつけはじめています。

静かな日だまりの谷の中で春のきたことをひとり楽しむのです。フキノトウをつみながら……

この早春の谷川べりで数年前オニシバリを見つけ採集しようとして折ろうとしたがどうしてもちぎれずに苦労したことを今もおぼえています。5月末には葉がおちはじめみつけにくくなってしまいますが、早春には谷川のふちにあちこちでみることができます。

同好の人に聞きますと他に産地はないのではないかという事です。村の人はチンチョウゲに似た花をめずらしがってか家の庭に植えているのがみかけられました。

4月になると一度に花が咲きはじめ谷はにぎやかになってきます。

神社の後ろの谷では茶花にするとかいうヒトリシズカが咲きワサビの白い花が年々少なくなってはきましたがまだまだみることができます。イチリンソウ、ニリンソウ、シャガ、ヤマルリソウ、キランソウ、ツルカノコソウ、シライトソウ、エビネ、コケイラン、サイハイラン、オドリコソウ、ホガエリガヤ、トボシガラ、カサスゲ、タニスゲ、コジュススゲ、ナガハシスミレ、アオイスミレ、ハナイカダ、ケナシヤブデマリ、ミヤマミズ、ヒメヘビイチゴ、ミヤマカタバミ、カンアオイ、キボウシ、テイカカズラ、シモツケなどの春の花で一ぱいになります。

5月下旬に咲くカラマツソウは村の入り口の谷川べりと山の斜面にとあります。

白い美しい花ですが花の時期が早いことなどで疑問とされている一品です。これはこの谷の入り口だけにしか見ることができません。

昨年若杉氏が発見されたレンブクソウも村の入り口の草むらの中にあります。富山で発見されたことが新聞にのっているのを見て福井にもあるかもしれないと思っていた矢先同好会誌で深谷にあることを知りました。

5月23日見に出かけた時は花の時期が過ぎていましたが、実のあるのを数本感激して採集して帰りました。この同じ場所にヒメニラもあるそうでこれもめずらしいものと聞き今年の春が楽しめそうです。

谷川ぞいにアスナロがたくさん育っていますがさし木でよく根がつくのだと村の人達が話してくれました。

四季折々の植物が観察できる深谷にもこの数年来開発の名のもとに自然の破壊が始まり村の入り口の山はけずりとられ姿を大きく変えてしまいました。谷の中でも林道が作られ、砂防ダムが作られたりして、山はくずされ植物は山肌からはぎとられ、谷川も山も荒されてきました。十数年前堀先生に始めてミカエリソウを教えてもらった時の群落も姿を消し、あるかなきかになってしまいました。この花も破壊の犠牲になって消えていく一つのように思われてなりません。これに反し帰化植物でわりあい珍しいと思っていたハキダメギクが山をけずってあらされた土地に一ぱいにはびこっているのには驚きました。

帰化植物が山の中までどんどん進入している姿を見ると淋しい気もちにさせられます。

六呂師の高原も一面牧草のひろっぱに変えられ楽しみな湿地もなくなり、早春に咲くオキナグサなどたくさんの植物が姿を消してしまいました。上小池のブナの原生林の伐採されたのを話に聞いていましたが昨年現地でこれを目のあたりにみながら以前のようすを聞きましたがなぜ緑の自然を大切にしないのか、一度荒された自然はもとにもどるには大変な年月がかかると聞くにつけ腹だたしさで一ぱいになります。

昨年セッコクが大変多量に根ごと採集されてこれを観光客にみやげとして売るという記事が新聞に出ていましたが、この記事もいかにもよい思いつきのように報ぜられていました。またこれを読んだ読者もきっと何とも思わず読んだのではないかと思います。これらのこともあまりにも自然を無視した行いで聞くにつけ見るにつけいいようのないいきどおりを感じます。

何とかならないでしょうか。

そんな意味でもこの深谷の自然をこれ以上破壊されないようにという気もちで一ぱいです。深谷の植物を書くようにといわれましたが横道へそれたようですが深谷を愛する気もちと自然への強い愛着からです。

旭小学校　教諭

深谷は福井市の西方2㎞ほどのところにある谷間です。林氏は日曜毎にここに出掛けて採集を楽しんでいます。

編集者　付記